

JCMAS

社団法人 日本建設機械化協会規格

除雪トラック — 仕様書様式

JCMAS F 013 : 1998

平成10年3月17日 制定

社団法人 日本建設機械化協会 標準化会議 審議



まえがき

この規格は、社団法人日本建設機械化協会規格（JCMAS）並びに標準化推進に関する規定に基づいて、標準化会議の審議を経て会長が制定した社団法人日本建設機械化協会規格である。

この規格の一部が、技術的性質を持つ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。社団法人日本建設機械化協会の会長及び標準化会議は、このような技術的性質を持つ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案出願にかかわる確認について、責任をもたない。

初版制定：平成10年3月17日

解説追加：平成10年11月

除雪トラック — 仕様書様式

Snow removing trucks —

Standard form of specifications

1. 適用範囲 この規格は、除雪トラックの仕様書の様式及び記入要領について規定する。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む）を適用する。

JIS D 0001	自動車の仕様書様式
JIS D 0101	自動車の種類に関する用語
JIS D 0102	自動車用語（自動車の寸法、質量、荷重及び性能）
JIS D 1001	自動車用エンジン出力試験方法
JIS D 1016	自動車最高速度試験方法
JIS D 4201	自動車用タイヤリムの諸元
JIS D 4202	自動車用タイヤの諸元
JIS D 5301	自動車用鉛蓄電池
JCMAS H 011	建設機械の騒音レベル測定方法

3. 用語の定義 この規格で用いる主な用語の定義は、JIS D 0101 及び JIS D 0102 によるほか、次による。

3. 1 全般

3. 1. 1 除雪トラック スノープラウないしスノープラウ及び路面整正装置などを装着し、除雪作業を行なうトラックベースの車両。

3. 1. 2 スノープラウ 車両前方に装着されモールドボードのプラウ作用によって雪を側方に排除する装置。主に新雪除雪、拡幅除雪に使用する。プラウの形状によりワンウェイプラウ、アングリングプラウ、Vプラウなどがある。

3. 1. 3 路面整正装置（トラックグレーダ） 除雪トラックの前輪と後輪の中間部に設けた除雪装置。路面整正、圧雪除去に用い、排雪方向を変えられるアングリング式と変えられない固定式とがある。

3. 2 質量

3. 2. 1 車両総質量 燃料を満載し、冷却水、潤滑油、作動油等の量を、除雪トラックに規定された値として、かつ、乗員の質量（55 kg×乗車定員）⁽¹⁾を加算したもの。

注(1) 道路運送車両の保安基準第1条にて、乗車定員1名の重量は55 kg（質量）とされている。

3. 3 性能

3. 3. 1 除雪姿勢 スノープラウ装置、路面整正装置等を接地させ、除雪を行なう姿勢。

3. 3. 2 走行姿勢 スノープラウ装置、路面整正装置等を走行（回送）に適する位置に上げて収納固定した姿勢。

3. 3. 3 **除雪幅** プラウ及びブレードを所定のアングル角に調整し、一行程で除雪できる有効幅。
3. 3. 4 **プラウ装置全高⁽²⁾** カuttingエッジ下端から円筒曲面板上端までの高さ。
注⁽²⁾ Vプラウ、ワンウェイプラウの様にプラウの高さが異なるものは、前端、後端の高さを併記する。
3. 3. 5 **プラウ装置全幅** Cuttingエッジ方向に測定したプラウ幅。
4. **仕様書の様式** 仕様書の様式は、付表1による。ただし、目的に応じて追加又は省略することができる。
5. **仕様書の記入要領** 仕様書記入の順序及び記入要領は、次による。
5. 1 **一般的な記入要領** 仕様書の一般的な記入要領は、次による。
5. 1. 1 **一般** 仕様書の記載事項で、特にこの規格に規定していないものは、JIS D 0102による。
5. 1. 2 **数値の丸め方** 仕様書に記入する数値の丸め方は、JIS D 0001による。
5. 2 **車両形式名称** 除雪トラックの呼び方に用い、製造業者略称、形式名、機種名の順序に記入する。
5. 3 **製造業者名** 製造業者名を記入する。ただし、車台の製作者と車体の製作者が異なり、両者を連書する場合には、車台の製作者、車体の製作者の順に記入する。
5. 4 **種別・用途** 道路運送車両法（昭和26年法律第185号）に準拠し、普通自動車、小型自動車又は軽自動車及び乗用、貨物、乗合その他の別を記入する。
5. 5 **質量及び質量配分**
5. 5. 1 **車両総質量** 3. 2. 1に規定する値を記入する。
5. 5. 2 **質量配分** 車両総重量測定状態で、前軸及び後軸に配分される質量を記入する。
5. 5. 3 **車両質量** 空車状態⁽³⁾の自動車の質量を記入する。
5. 5. 4 **乗車定員** 乗車できる乗員数を記入する。
- 注⁽³⁾ 空車状態は、JIS D 0102による。
5. 6 **寸法** 空車状態における寸法とし、記入値は、小数点以下第3位までとし、最終位を0又は5に丸める。
5. 6. 1 **全長** 除雪トラック全体の最大長さを記入する。
5. 6. 2 **全幅** 除雪トラック全体の最大幅を記入する。ただし、フロントプラウ及び路面整正装置でアングリング出来る構造のものは左最大アングル状態とし、サイドウィングは格納状態とする。
5. 6. 3 **全高** 除雪トラックの最高部までの高さを記入する。なお、最高部の名称を付記する。
5. 6. 4 **軸距** 前後の車軸の軸中心間の水平距離を記入する。3軸以上の場合には、第1軸距、第2軸距、... に分けて前から順に記入し、必要に応じてその合計を付記する。
5. 6. 5 **輪距** 左右のタイヤの、接地面での中心間の距離を記入する。複輪の場合には、複輪間隔の中心間の距離を記入する。
5. 6. 6 **前オーバハング** 最前車輪中心を通り、縦中心面に直角な鉛直面から、除雪トラック（走行姿勢）の最前部までの水平距離を記入する。
5. 6. 7 **後オーバハング** 最後車輪中心を通り、縦中心面に直角な鉛直面から、除雪トラック最後部までの水平距離を記入する。

5. 6. 8 **最低地上高さ** 接地面と除雪トラックの中央部分⁽⁴⁾の最下部との距離を記入する。
注⁽⁴⁾ トラックの中央部分は自動車の縦中心面から等距離で平行な2平面の内に含まれる、
車輪間の80%の部分。

5. 7 性能

5. 7. 1 **除雪幅** 各除雪装置の一行程で除雪できる有効幅を記入する。ただし、フロントプラウ及び路面整正装置でアングリングできる構造のものは左最大アングル状態とする。スライド式は最大に伸ばした時と最小に縮めた時を併記する。

5. 7. 2 **除雪高さ** 製造業者が標準的な使用状態として規定する積雪高さを記入する。

5. 7. 3 **作業速度** 製造業者が標準的な使用状態として規定する作業速度を記入する。

5. 7. 4 **最高速度** 除雪トラックが、水平平坦路面において出すことのできる最大の速度をJIS D 1016に基づき求めた値を、次の丸め方によって丸め、整数位まで記入する。

なお、計算によるときは、“推定”と付記する。整数末尾の値を0又は5に切り下げる。

5. 7. 5 **登坂能力** 登ることのできる最大傾斜角の正接の値を記入する。記入値は小数点以下第2位までとし、第3位以下を切り捨てる。

5. 7. 6 **最小回転半径** 外側車輪最小回転半径について、運転者1名が乗車した場合の値を記入する。記入値は小数点以下第1位までとし、第2位を切り上げる。

5. 7. 7 **騒音レベル** 運転席を密閉した状態で、運転員耳元騒音をJCMAS H 011によって測定した値を記入する。この時エンジンの回転速度は、最高回転速度の80%とする。

5. 8 トラックシャシ

5. 8. 1 エンジン

- a) **名称** 製造業者略称、呼び名及び種類の順序に記入する。
- b) **形式** サイクル、シリンダ配置、燃焼室形式、過給方式などの順序で記入する。
- c) **総行程容積** 単位はリットル (L) とし、記入値は小数点以下第3位までとする。
- d) **最高出力** JIS D 1001によって定められたネット軸出力試験における最高出力を整数位まで記入し、回転数を付記する。ただし、記入値の丸め方について法令で別に定める場合には、それによる。
- e) **最大トルク** JIS D 1001によって定められたネット軸出力試験における最大トルクを小数点以下第1位まで記入し、第2位以下を切り捨てる。また、その時の回転数を付記する。
- f) **始動電動機** 標準電圧と出力を記入する。
- g) **充電発電機** 交流式、直流分巻式などの別、標準電圧及び出力を記入する。
- h) **蓄電池** JIS D 5301による形式、電圧、容量及び個数を記入する。

5. 8. 2 動力伝達装置

- a) **伝達方式** 機械式、油圧式の別を記入する。
- b) **クラッチ** 乾・湿の別、単板、多板の別、必要に応じて作動、操作方法などの別を記入する。
例 乾燥単板ダイヤフラム式 (油圧操作エアサーボ)
流体継手 (3要素1段2相)
- c) **主変速機** 作動方式、変速レバーの位置、操作方式などの別を記入する。
例 2, 3, 4速シンクロメッシュ フロアシフト式
トルクコンバータ自動変速式 コラムセレクト式
- d) **変速比** 記入値は小数点以下第3位までとし、第4位以下を切り捨てる。
なお、副変速機を持つものでは、必要に応じて組み合わせた変速比について記入する。
- e) **副変速機** 主変速機に準じるほか、変速比を記入する。

例 コンスタントメッシュ フロアシフト式 1.000/1.351

- f) 分配機 歯車形式，操作方式，変速比を記入する。
- g) 減速機 歯車形式及び減速比を記入する。変速式の場合には，その操作方式を付記する。

例 ハイポイド 5.286

まがりばかさ 2.500×まがりば平，2.176(高)，2.917(低)エアシフト式

- h) 差動機 平歯車，かさ歯車などの歯車の種類とその個数を記入する。

また，差動制限装置がある場合は，その形式を付記する。

5. 8. 3 車軸

- a) 車輪配列 前から順に車軸ごとの車輪数を記入し，駆動輪は，車輪数の後に“駆動”と付記し，前軸と後軸の間に“・”印を入れ，前・後車軸ごとの車輪数の間には，“-”を入れるものとする。ただし，複輪は1輪に数え，車輪数の前に“複”と付記する。
- b) 前車軸の形式 エリオット形，逆エリオット形，ボールジョイント式など及び前車軸と車軸（又は支持装置）との形式を記入する。
なお，駆動軸の場合には後車軸形式に準じて支持方式を併記する。
- c) 後車軸の形式 全浮動，半浮動などの支持方式及び軸管式，スイング軸式，死軸式などの車軸の形式を記入する。

5. 8. 4 車輪 JIS D 4202 によって規定されたタイヤの呼び又はこれに準ずるタイヤの呼びを記入する。また，JIS D 4201 によるリムの呼びを記入する。

5. 8. 5 かじ取り装置 リンク装置，歯車形式を記入し，たわみ継手，倍力装置などがある場合には，その種類形式を付記する。

5. 8. 6 ブレーキの種類・形式 ブレーキの作動方法，作動箇所，本体の形式などを記入する。制動力制御装置，又は倍力装置付の場合には，その種類を付記する。

5. 8. 7 懸架方式 ばねの種類を記入する。ただし，独立懸架の場合には，“独立懸架”と明記し，その方式とばねの種類を併記する。

5. 8. 8 フレーム形式 X形，はしご形，フレームレスなどの形式について記入する。

5. 9 除雪装置

5. 9. 1 フロントプラウ

- a) 形式 ワンウェイ，アングリングなどの形式，及び作動方式を記入する。
- b) 質量 プラウ装置の質量を記入する。
- c) 除雪装置昇降装置 平行リンク式，チェーン式などの形式，及び作動方式を記入する。
- d) カuttingエッジ下端の最大地上高さ プラウをチルトさせない状態で最も上げた時のカuttingエッジの下端の地面からの距離を記入する。
- e) カuttingエッジ下端の最大地下深さ プラウをチルトさせずにピッチ（前傾，後傾）角 0 度の状態で最も下げた時のカuttingエッジ下端の地面からの深さ。
- f) 上昇時間 プラウの地上位置からカuttingエッジ刃最大地上高さまでの所用時間を記入する。
- g) プラウ構造 カuttingエッジの形状，プラウの板厚，曲面形状を記入する。
- h) 全幅 プラウのカuttingエッジ部の長さを記入する。
- i) 全高 プラウのカuttingエッジ下端から円筒（又は円錐）曲面板上端までの高さを記入する。Vプラウ，ワンウェイプラウの様にプラウ高さが異なるものは，前端，後端の高さを記入する。
- j) プラウ取付角度 除雪トラック車体の中心線とプラウのカuttingエッジとのなす角を記入

する。

- k) **プラウ切削角度** プラウをストレート姿勢としプラウを前傾及び後傾することなく水平に位置した姿勢におけるカッティングエッジ面と地面のなす角度を記入する。
- l) **カッティングエッジ** 形状，材質等を記入する。
- m) **デフレクタ** デフレクタの形式，材質等を記入する。
- n) **そり** そり（スレッド）の形状，形式，個数を記入する。

5. 9. 2 路面整正装置

- a) **形式** ワンウェイ，アングリングなどの形式，及び作動方式を記入する。
- b) **質量** 路面整正装置の質量を記入する。
- c) **除雪装置昇降装置** 平行リンク式などの形式，及び作動方式を記入する。
- d) **カッティングエッジ最大地上高さ** ブレードをチルトさせずに除雪状態で最も上げた時のカッティングエッジの最下点の地面からの距離を記入する。
- e) **カッティングエッジ最大地下深さ** ブレードをチルトさせずに除雪状態で最も下げた時のカッティングエッジ先端の地面からの深さを記入する。
- f) **ブレード構造** カッティングエッジの形状，ブレードの板厚，曲面形状を記入する。
- g) **全幅** ブレードのカッティングエッジ部の長さを記入する。
- h) **全高** ブレードのカッティングエッジ下端から円筒曲面板上端までの高さを記入する。
- i) **線圧** 車両質量をブレード下端と後輪（場合によっては前輪）で支えた時の，ブレード下端にかかる荷重をブレード長さで割ったものを記入する。
- j) **ブレード地上高** ブレードを回送姿勢で上昇させた時の地面からカッティングエッジ最下端までの距離を記入する。
- k) **ブレード取付角度** 除雪トラック車体の中心線と路面整正装置のカッティングエッジとのなす角を記入する。
- l) **ブレード切削角** ブレードの除雪姿勢におけるカッティングエッジ面と地面のなす角を記入する。
- m) **カッティングエッジ** 形状，材質等を記入する。
- n) **操作方法** 油圧式，機械式等の種類を記入する。
- o) **安全装置** シャピン式，シャピンレス（ばね式等）を記入する。

5. 9. 3 サイドウィング

- a) **形式** ワンウェイ，ツーウェイなどの形式，及び作動方式を記入する。
- b) **質量** プラウ装置の質量を記入する。
- c) **除雪装置昇降装置** 平行リンク式，チェーン式などの形式，及び作動方式を記入する。
- d) **カッティングエッジ最大地上高さ** ウィングを路面と平行に最も上げた時のカッティングエッジの最下点の地面からの距離を記入する。
- e) **カッティングエッジ最大地下深さ** ウィングをチルトさせずに路面と平行に最も下げた時のカッティングエッジ先端の地面からの深さを記入する。
- f) **上昇時間** ウィングの地上位置から切刃最大地上高さまでの所用時間を記入する。
- g) **プラウ構造** カッティングエッジの形状，ウィングの板厚，曲面形状を記入する。
- h) **全幅** ウィングのカッティングエッジ部の長さを記入する。
- i) **全高** ウィングのカッティングエッジ下端から円筒（又は円錐）曲面板上端までの高さを記入する。ウィング高さが異なるものは，前端，後端の高さを記入する。
- j) **ウィング取付角度** 除雪トラック車体の中心線とウィングのカッティングエッジとのなす角を

記入する。

k) **ウィング切削角度** ウィングをストレート姿勢としウィングを前傾及び後傾することなく水平に位置した姿勢におけるカッティングエッジ面と地面のなす角度を記入する。

l) **カッティングエッジ** 形状, 材質等を記入する。

5. 9. 4 カウンターウェイト

a) **形式** 固定式, 移動式等の形式を記入し, 材質を併記する。

b) **質量** カウンターウェイトの質量を記入する。

5. 10 油圧装置

5. 10. 1 油圧ポンプ

a) **形式・個数・用途** 形式 (歯車式, ピストン式, ベーン形の別), 個数及び用途を記入する。

b) **吐出し量** ポンプ1回転当たりの吐出し量の値を記入する。

c) **リリーフバルブ・セット圧** セット圧を記入する。

5. 10. 2 操作弁

a) **形式・個数・用途** 形式 (マニュアル式, 電磁式, スプール式, ポペット式などの別), 個数及び用途を記入する。

b) **作動位置** 各操作弁の作動位置 (上, 保持, 下等) を記入する。

5. 11 運転室

5. 11. 1 **構造** 運転席の構造 (密閉型, 開放型などの別), 構成材質を記入する。

5. 11. 2 **扉** 扉の位置及び数を記入する。

5. 11. 3 **窓** 合わせガラス, 強化ガラス, 部分強化ガラスなどの別及び厚さを記入する。日本工業規格などの規格によるものはその旨を括弧を付けて付記する。

5. 12 運転装置

5. 12. 1 **レバー及びペダル類** 除雪トラックの運行に必要なレバー, ペダル, 及びスイッチ類の種類, 数を記入する。

5. 12. 2 **計器類** 除雪トラックの運行に必要な計器類の種類と数を記入する。

5. 12. 3 **照明装置** 除雪トラックの運行に必要な灯火の種類, ワット数, 及び数を記入する。

5. 13 **その他** その他除雪トラックの運行に必要な装置を記入する, 必要に応じて形式等も付記する。

5. 14 **水・油類の種類及び容量** 水・油類の種類とその容量を記入する。

a) **冷却水** エンジン本体の分も含み, 冷却装置全体の容量 (ヒータ兼用の放熱器の分も含む。) を記入する。記入値は整数位までとし, 小数点以下を切り捨てる。

b) **燃料タンク** 2個以上のタンクをもつ場合には, タンクごとの容量を“+”の記号を間に入れて記入する。

c) **エンジン潤滑油** 使用油の種類, 油ろ過器, 油ポンプ, 配管, タンクなども含めた全油量を記入する。

d) **クラッチ** 流体継手の場合にだけ, 使用油の種類, 及び液量を記入する。

e) **主変速機** 使用油の種類, 及び液量を記入する。

f) **副変速機** 使用油の種類, 及び液量を記入する。

g) **分配機** 使用油の種類, 及び液量を記入する。

h) **差動機** 使用油の種類, 及び液量を記入する。

i) **かじ取り装置** 使用油の種類, 及び液量を記入する。

j) **ブレーキ装置** 使用油の種類, 及び液量を記入する。

- k) 除雪装置作動油 使用油の種類, 及び液量を記入する。
5. 1 5 付属装置及び付属品 付属装置及び付属品の名称, 個数, 規格寸法などを記入する。
5. 1 6 その他 その他必要と思われるものを記入する。

関連規格

JIS Z 8401	数値の丸め方
JCMAS F 012	除雪グレーダー仕様書様式
JCMAS T 005	除雪グレーダー性能試験方法
JCMAS T 006	除雪トラック性能試験方法
JCMAS F 014	除雪ドーザー仕様書様式
JCMAS T 007	除雪ドーザー性能試験方法
JCMAS F 015	凍結防止剤散布車仕様書様式
JCMAS T 008	凍結防止剤散布車性能試験方法

付表 1 除雪トラック仕様書様式

車両型式名称 _____

製造業者名 _____

種別・用途 _____

質量及び質量配分

車両総質量 _____ kg

質量配分

車両質量 前軸 _____ kg 後軸 _____ kg

車両質量 _____ kg

乗車定員 _____ 人

寸法

全 長 _____ m

全 幅 _____ m

全 高 _____ m

軸 距 _____ m + _____ m

輪 距 前輪 _____ m 後輪 _____ m

オーバハング 前 _____ m 後 _____ m

最低地上高さ _____ m

性能

路面除雪幅

フロントプラウ _____ m

路面整正装置 _____ m

サイドウィング _____ m

標準除雪高さ

フロントプラウ _____ m

路面整正装置 _____ m

サイドウィング _____ m

標準作業速度

フロントプラウ _____ km/h

路面整正装置 _____ km/h

サイドウィング _____ km/h

最 高 速 度 _____ km/h

登 坂 能 力 _____

最小回転半径 _____ m

騒 音 レベル _____ dB

(エンジン最高回転速度の 80 %において)

付表 1 除雪トラック仕様書様式 (続き)

トラックシャシ

エンジン

名称 _____
 形式 _____
 総行程容積 _____ ℓ
 最高出力 _____ kW (_____ min⁻¹において)
 最大トルク _____ kN・m (_____ min⁻¹において)
 始動電動機 _____ V _____ kW
 充電発電機 交流・直流の別 _____ V _____ kW
 蓄電池種類 _____ 形 _____ V _____ A _____ 個

動力伝達装置

伝達方式 _____ 式
 クラッチ 形式 _____ 式
 主変速機 形式 _____ 式
 変速比 1速 _____
 2速 _____
 3速 _____
 4速 _____
 5速 _____
 6速 _____
 後退 _____
 副変速機 形式 _____ 式
 変速比 _____
 分配機 形式 _____
 変速比 _____
 減速機 形式 _____ 式
 減速比 _____
 差動装置 形式 _____ 式

車軸

車軸配列 _____
 前軸 形式 _____ 式
 後軸 形式 _____ 式

車輪

タイヤ 前輪 _____
 後輪 _____
 リム 前輪 _____
 後輪 _____

かじ取り装置

形式 _____

付表1 除雪トラック仕様書様式(続き)

ブレーキ種類・形式

主ブレーキ _____
 駐車ブレーキ _____
 補助ブレーキ _____
懸架装置
 前 _____
 後 _____
フレーム
 形 式 _____

除雪装置**フロントプラウ**

形 式 _____
 質 量 _____ **kg**

除雪装置昇降装置

形 式 _____
 カッティングエッジ最大地上高さ _____ **mm**
 カッティングエッジ切刃最大地下深さ _____ **mm**
 上昇時間 _____ 秒

プラウ

構 造 _____
 全 幅 _____ **mm**
 全 高 _____ **mm**
 取付角度 _____ 度
 切削角度 _____ 度
 カッティングエッジ _____

デフレクタ

形 式 _____

そり

形 式 _____
 個 数 _____ **個**
 寸 法 _____

付表 1 除雪トラック仕様書様式 (続き)

路面整正装置

形 式	_____
質 量	_____ kg
除雪装置昇降装置	
形 式	_____
カッティングエッジ最大地上高さ	_____ mm
カッティングエッジ切刃最大地下深さ	_____ mm
ブレード	
構 造	_____
全 幅	_____ mm
全 高	_____ mm
線 圧	_____ kN/m
ブレード地上高さ	_____ mm
ブレード取付け角度	_____ 度
ブレード切削角度	_____ 度
カッティングエッジ	_____
操作方法	_____
安全装置	_____
サイドウィング	
形 式	_____
質 量	_____ kg
除雪装置昇降装置	
形 式	_____
カッティングエッジ最大地上高さ	_____ mm
カッティングエッジ最大地下深さ	_____ mm
上昇時間	_____ 秒
ウィング	
構 造	_____
全 幅	_____ mm
全 高	_____ mm
取付角度	_____ 度
切削角度	_____ 度
カッティングエッジ	_____
カウンタウエイト	
形 式	_____
質 量	_____ kg

付表 1 除雪トラック仕様書様式 (続き)

油圧装置

油圧ポンプ 形式・個数・用途 _____ 形 _____ 個 (用途_____)
 吐出し量 _____ **ml/rev**
 標準回転数 _____ **min⁻¹**
 リリーフバルブ・セット圧 _____ **kPa**

操作弁 形式・個数・用途 _____ 形 _____ 個 (用途_____)
 _____ 形 _____ 個 (用途_____)
 _____ 形 _____ 個 (用途_____)

作動位置 _____

運転室

構造 _____

扉 _____

窓 前 _____

右 _____

左 _____

後 _____

運転装置

レバー及びペダル類

計器類

灯火装置

その他

付表 1 除雪トラック仕様書様式 (続き)

水・油類の種類及び容量

冷却水	全容量		1
燃料タンク	規定容量		1
エンジン潤滑油	使用油の種類	規定量	1
クラッチ	使用油の種類	規定量	1
トルクコンバータ	使用油の種類	規定量	1
主変速機	使用油の種類	規定量	1
副変速機	使用油の種類	規定量	1
分配機	使用油の種類	規定量	1
差動機	使用油の種類	規定量	1
かじ取り装置	使用油の種類	規定量	1
ブレーキ装置	使用油の種類	規定量	1
除雪装置作動油	使用油の種類	規定量	1
付属装置及び付属品			

その他			

JCMAS F 013 : 1998

除雪トラック — 仕様書様式 解説

この解説は、本体に規定・記載した事柄、並びにこれらに関連した事柄を説明するもので、規格の一部ではない。

1. 制定の趣旨及び経緯

1. 1 制定の趣旨 この規格は、除雪トラック—性能試験方法（JCMAS T 006）と対になるもので、製造業者及び購入者が仕様書を作成する際に、用語、記載項目、記入要領について統一するために作成した。

1. 2 制定の経緯 この規格の原案は、平成8～9年度に社団法人日本建設機械化協会の機械部会除雪機械技術委員会で審議し作成された。次いで、この原案を基にして同協会規格部会規格委員会の審議を経て、規格部会運営連絡会より同協会標準化会議に提出され、審議の結果、平成10年3月17日付けで制定された。

2. 各構成要素の内容

2. 1 用語の定義の根拠（本体の3.） 次の用語は、社団法人日本建設機械化協会機械部会除雪機械技術委員会が作成した“除雪機械の用語（平成7年3月）”を根拠とし、必要により表現を修正して定義を記述した。

- a) 除雪トラック（本体の3. 1. 1） “除雪機械の用語”を根拠として用語を定義した。但し、慣用的に、除雪トラックを、スノープラウ又はトラックグレーダ（腹グレ）と呼ぶことがある。
- b) スノープラウ（本体の3. 1. 2）
- c) 路面整正装置（本体の3. 1. 3）
- d) 除雪幅（本体の3. 3. 5）

2. 2 箇条標題などに用いられる用語の根拠 次の用語は、社団法人日本建設機械化協会機械部会除雪機械技術委員会が作成した“除雪機械の用語（平成7年3月）”を根拠とし、必要により表現を修正して定義を記述した。

- a) 除雪高さ（本体の5. 7. 2） “除雪機械の用語”を参考に、プラウの曲面中心の高さで示す。これは、除雪可能な雪の深さは雪質、作業環境、運転操作などにより変化し、定量的な値を定めることが難しいためである。
- b) カuttingエッジ下端の最大地上高さ（本体の5. 9. 1 d）など “除雪機械の用語”の“切刃最大地上高さ”を一般的な用語“カuttingエッジ下端の最大地上高さ”に読み換えた。
- c) カuttingエッジ下端の最大地下深さ（本体の5. 9. 1 e）など “除雪機械の用語”の“切刃最大地下深さ”を一般的な用語“カuttingエッジ下端の最大地下深さ”に読み換えた。

3. 原案作成委員会の構成表 原案作成委員会の構成表を、次に示す。

原案作成委員会（社団法人日本建設機械化協会機械部会除雪機械技術委員会）構成表

	氏名	所属
(委員長)	新田 恭士	建設省 建設経済局 建設機械課
	小池 暢一	いすゞ自動車 株式会社
	甲斐 賢	岩崎工業 株式会社
	宮西 三喜男	開発工建 株式会社
	関口 徳康	株式会社 加藤製作所
	上見 弘	川崎重工業 株式会社
	本吉 毅	極東開発工業 株式会社
	前中 重雄	株式会社 神戸製鋼所
	村岡 征	株式会社 小松エスト
	岩崎 通夫	株式会社 小松製作所
	仲田 良輔	新キャタピラー三菱 株式会社
	窪 俊和	東洋運搬機 株式会社
	中園 裕喜	東洋運搬機 株式会社
	須田 光俊	株式会社 新潟鉄工所
	鈴木 康之	日産ディーゼル工業 株式会社
	関谷 洋一	株式会社 日本除雪機製作所
	野原 以左武	範多機械 株式会社
	三浦 明弘	日立建機 株式会社
	宮寺 敏行	日野自動車工業 株式会社
	小川 治夫	古河機械金属 株式会社
	池田 長司	三菱自動車工業 株式会社
	平郡 秀昭	三菱自動車工業 株式会社
	八幡 光政	三菱重工業 株式会社
	下崎 信二	三菱重工業 株式会社
	秋山 勲	矢崎計器 株式会社
	古屋 勝	マルマテクニカ 株式会社
	門内 正信	社団法人 日本建設機械化協会 建設機械化研究所

以上